

企業グループ理念の実現に向けた経営の重要課題 (マテリアリティ)

日本製紙グループの重要課題

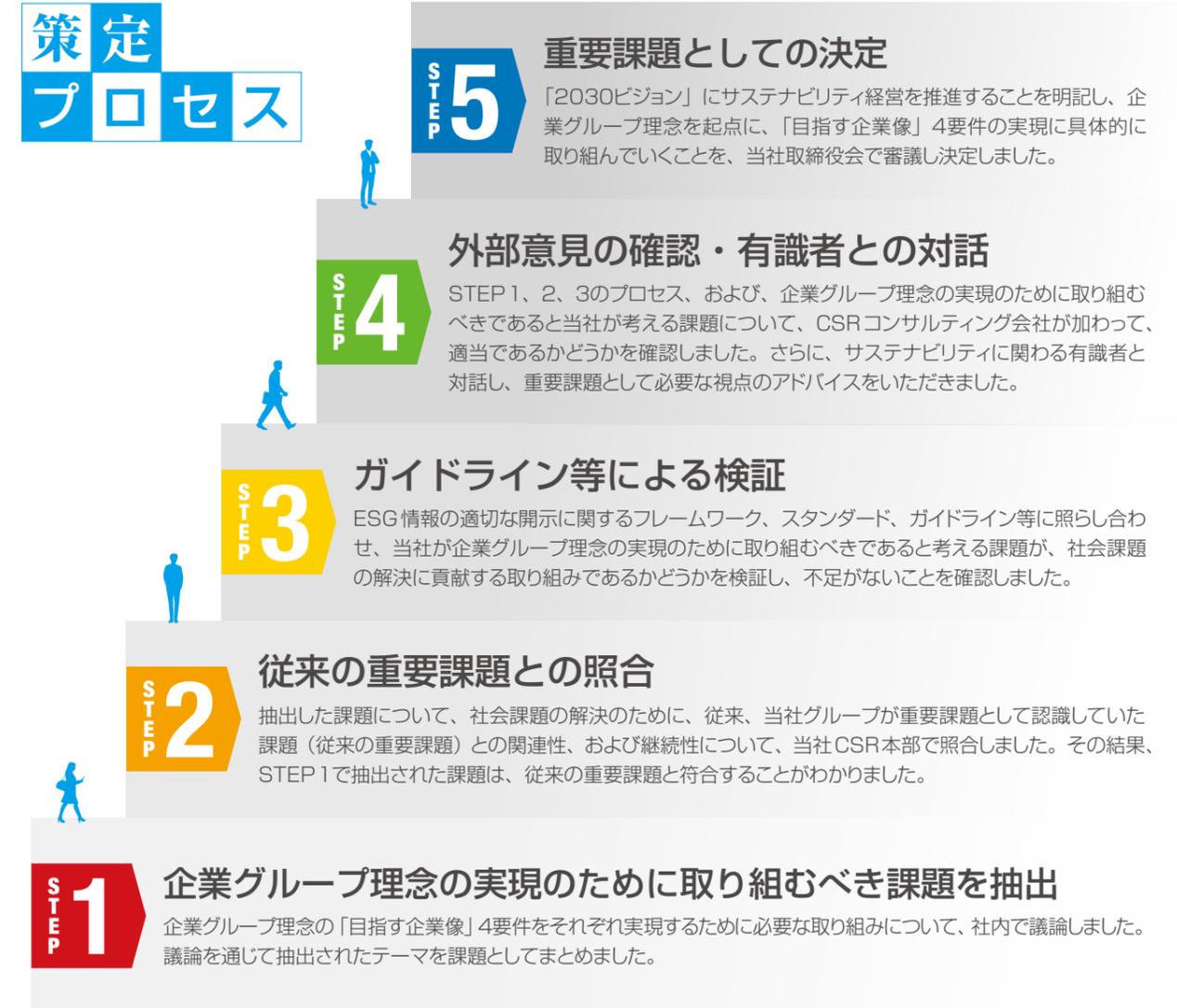
気候変動問題や感染症パンデミックなど、世界は、社会の変容を余儀なくされる転換期を迎えています。国内洋紙の需要は、従来、構造的要因により減少傾向が続いていますが、新型コロナウイルス感染症のまん延により、さらに大きく落ち込みました。

日本製紙は、変化に対応し企業グループ理念を実現するために、

10年後に目指す姿を描き、その達成に向けた経営課題を「2030ビジョン」として策定しました。その策定の過程で、企業グループ理念の「目指す企業像」4要件に対応する経営の課題を議論し、当社グループの重要課題としてまとめました。

理念 日本製紙グループは世界の人々の豊かな暮らしと文化の発展に貢献します

	以下の要件を満たす、社会から永続的に必要とされる企業グループ	日本製紙グループの重要課題	選定した背景
目指す企業像	1 事業活動を通じて持続可能な社会の構築に寄与する	バリューチェーンを通じた ●気候変動問題への対応 ●持続可能な森林資源の活用 ●生物多様性の保全 ●資源循環の推進 ●環境負荷の低減 ●人権の尊重	当社グループは、「2030ビジョン」において、「木とともに未来を拓く総合バイオマス企業」として持続的な成長を遂げることを明記しています。当社グループは森林資源を基盤として、多様な事業を展開しています。環境は、社会・経済と密接に関連することから、ここに掲げる課題をバリューチェーン全体で取り組んでいく必要があると考えています。
	2 お客様のニーズに的確に応える	●社会環境の変化への対応 (環境配慮やヘルスケアなど) ●製品の安定供給・安全性向上	社会の変容に伴い、お客さまのニーズも変化します。世の中に必要とされる製品を安定的に提供すること、製品の安全性と品質の確保は、製造業として当然取り組むべき課題であると考えています。
	3 社員が誇りを持って明るく仕事に取り組む	●多様な働き方の実現 ●多様な人材の活躍 ●労働安全衛生の推進	柔軟な働き方が社会・経済の成長を支えることが期待されています。当社グループにおいても、多様な働き方を実現するとともに、多様な人材の価値創造力を最大限発揮できる職場づくりが必要であると考えています。
	4 安定して利益を生み出し社会に還元する	上記1、2、3の取り組みに加えて、 ●ガバナンスの充実 ●ステークホルダーとの対話 ●地域・社会との共生	持続可能な社会の構築に貢献するためには、ビジネスで利益を安定的に生み出すことが肝要であり、そのためにはガバナンスの強化が必要です。また、さまざまな形でステークホルダーの皆さまと対話することが企業成長につながり、地域・社会との共生を実現すると考えています。



有識者ダイアログから

森林資源に関わる社会課題と経済性の両立を目指すマテリアリティ

企業グループ理念をもとに経営上のマテリアリティを構築するプロセスは合理性があり、地に足の着いた取り組みとして誠実な印象を受けました。マテリアリティは、全体として違和感なく抽出されていると思います。特に森林資源など生態系を守り、回復することは、喫緊のグローバル課題として非常に関心が高まっており、事業の中でいかに生態系の

恩恵を受けているか、そしていかにインパクトを与えているか、しっかりと情報発信していただきたいと思います。また、環境・社会・経済の要素は相互に関連して一体であることを認識し、社会や人間に関わる課題にも、より目を向ける必要があります。今後もマテリアリティに取り組む中で、意識してさまざまなステークホルダーと対話されることを望みます。



損害保険ジャパン株式会社
サステナビリティ推進部
シニアアドバイザー
明治大学経営学部 特任教授

関 正雄